

三重県における ATL ウイルス感染の実態の検討 (第3報)

桜井 実¹⁾, 神谷 齊²⁾, 伊藤正寛¹⁾

要約: 昨年までの実態調査に引き続き、本年は三重県におけるATL母子感染防止対策を産婦人科医会、小児科医会によびかけ、二次検査のシステムづくりを行った。一次検査で疑陽性または陽性の血清が三重県検査センター(三重病院検査科)に送られEIA確認試験とウエスタンブロットを行った。本年の経験をもとに今後のシステムを完成させてゆきたい。

見出し語: 三重県、ATL

研究方法: 昨年の研究成果により、三重県下ATLA抗体陽性の妊婦数は0.7%と推定されたので、産婦人科医会と小児科医会に呼びかけ、二次検査が不十分であるため、県内の二次検査のシステムづくりを行った。このシステムに参加を希望する医師に発送用の二次検査セットを渡し、三重病院検査科へ送付しEIA確認試験ならびにウエスタンブロットを実施した。二次検査の具体的な方式は以下の如くである。

- 1) 二次検査対象: 一次スクリーニングの結果が疑陽性または陽性者
- 2) 二次検査時期: 妊娠32-34週
- 3) 検査機関: 国立療養所三重病院
- 4) 必要検体: 血清1cc

送付方法: 検査申し込み用紙を添え宅急便または直接国立療養所三重病院検査科へ送付する。(受付 月-金 午前9時から午後4時)

- 5) 血清保存方法: 直ちに血清を送付する場合は冷蔵輸送する。直ちに血清を送付できない場合は凍結保存し、後日凍結のまま送付する。
- 6) 二次検査セット: (1) 検体申込用紙 (2) 結果通知書 (3) 血清保存容器 (4) ラベル (5) 検体送付用封筒 (6) 返信用封筒

二次検査セットは産婦人科医会事務局に申し込む。

- 7) 代金: 100円(セット代金と手数料)
- 8) 結果の通知: 1ヶ月以内に主治医宛に送付する。

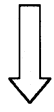
1) 三重大学医学部小児科学教室 (Dept. of Pediatrics, Mie University School of Medicine)

2) 国立療養所三重病院小児科 (Dept. of Pediatrics, Mie National Hospital)

結果：本システムに送付された検体は三重県下の7医療機関より母親10名、児4名であった。母親については妊娠15-16週で検査が送付されたもの4例（40%）、29-30週で検体が送付されたもの6例（60%）であった。児については臍帯血2例、1ヶ月時1例であった。

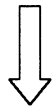
判定については母親では当県下の検査センターでP A法陽性と判定された症例につき、E I A確認試験を実施したところ、陰性者が5例、陽性者が4例認められた。陽性者についてはウエスタンブロットで確認し、すべて陽性であった。

考察：本年は三重県下のシステムづくりを実施した段階であり、まだデータと結果も不十分である。しかし当県のようにむしろ一部地域では侵淫率が高く、一部地域では低く、陽性の女性が結婚により混在しているような地域では、A T Lの感染を根本的に予防して行くため、十分なシステムづくりが重要である。本年の経験をもとに今後のシステムづくりをしてゆきたい。本研究班への参加が、当県下でのA T L母子感染予防のネットワークづくりにも役立ったことは喜ばしい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:昨年までの実態調査に引き続き、本年は三重県における ATL 母子感染防止対策を産婦人科医会、小児科医会によびかけ、二次検査のシステムづくりを行った。一次検査で疑陽性または陽性の血清が三重県検査センター(三重病院検査科)に送られ EIA 確認試験とウェスタンブロットを行った。本年の経験をもとに今後のシステムを完成させてゆきたい。